

食品に関するリスクコミュニケーション
「知ろう、考えよう、輸入食品の安全性」

輸入食品 安全なのになぜ不安？

2018年2月1日、7日
(一社)全国消費者団体連絡会
事務局長 浦郷由季



一般社団法人 全国消費者団体連絡会

- * 1956年設立
- * 1990年代～政策提言型運動(PL法、消費者契約法)
- * 2000年代～消費者基本法、食品安全基本法、公益通報者保護法、
消費者団体訴訟制度
- * 2009年 消費者庁設置
- * 2013年4月 一般社団法人に移行
- * 「消費者の権利の実現とくらしの向上、消費者団体活動の活性化と
消費者運動の発展に寄与すること」を目的として活動
- * 現在、48団体で構成
- * (全国的消費者団体16、地域単位の消費者連絡組織26
消費者問題に関わる非営利組織6)

今日お話しすること

- * 1. 消費者はなぜ不安に思うのか？
 - * 1) 消費者の意識
 - * 2) 専門家と消費者のリスクのとらえ方の違い
 - * 3) 適切な情報が消費者に伝わらない
 - * 4) 違反事件のイメージ・メディアの翻弄記事
- * 2. 不安を取り除くためには

2

1. 消費者はなぜ不安に思うのか？

1) 消費者の意識

(日本政策金融公庫「平成28年度下半期消費者動向調査」より)



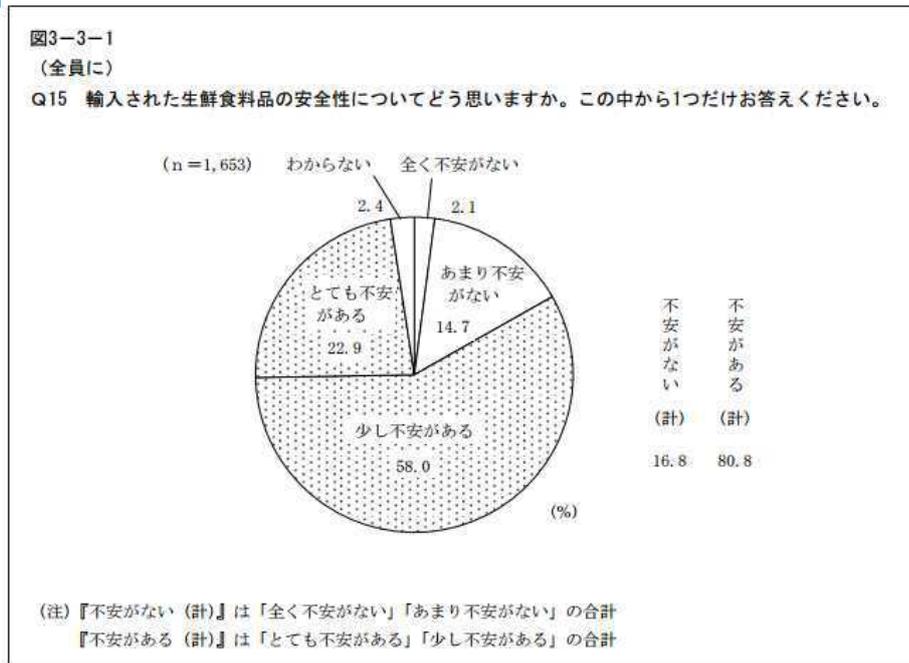
輸入食品に対して安全というイメージを持つ消費者はごく僅かで安全面に問題があると回答した消費者がかなり多い。

3

1. 消費者はなぜ不安に思うのか？

1) 消費者の意識

(東京都・2016年2月公表「食品の購買意識に関する世論調査報告書」より)



輸入された生鮮食料品の安全性について不安があるという回答が約8割

4

1. 消費者はなぜ不安に思うのか？

2) 専門家と消費者のリスクのとらえ方の違い

食品安全委員会・食品に係るリスク認識アンケート調査結果(2015年5月公表)

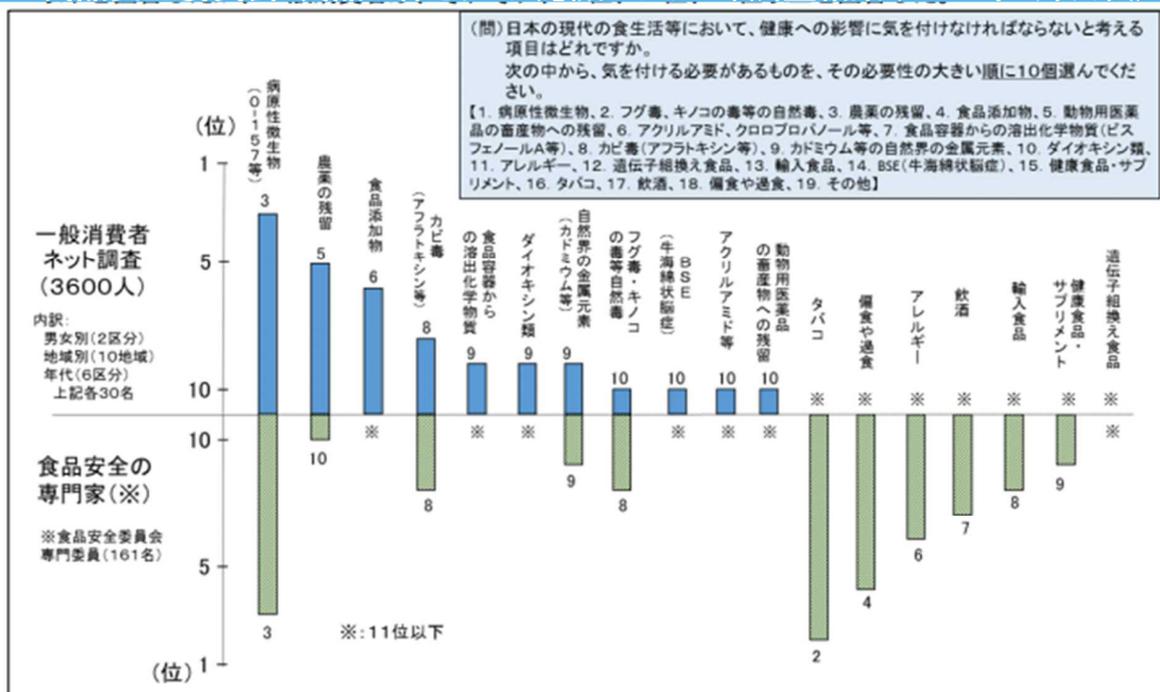
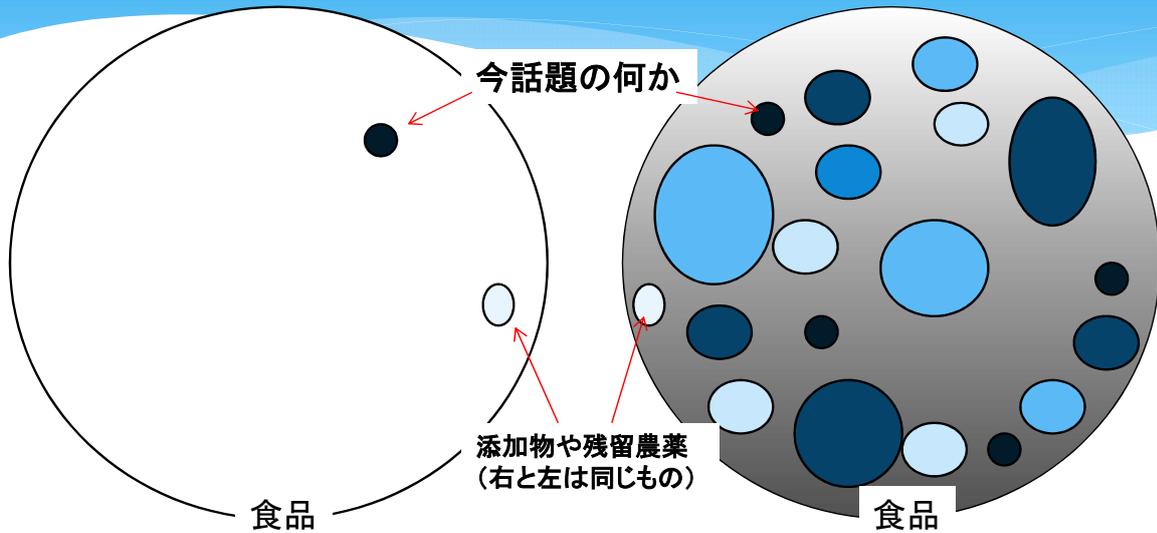


図1 健康への影響に気を付けるべきと考える項目の順位 (中央値)

5

1 消費者はなぜ不安に思うのか？

2) 専門家と消費者のリスクのとらえ方の違い リスクはゼロではないのだが・・・



一般の人の
食品の汚染についてのイメージ

食品リスク研究者の
食品の汚染についてのイメージ

国立医薬品食品衛生研究所安全情報部長

畝山智香子先生の『「安全な食べもの」ってなんだろう？放射線と食品のリスクを考える』(日本評論社)より

6

1. 消費者はなぜ不安に思うのか？

3) 適切な情報が消費者に伝わらない

- * 輸入食品の監視体制は、3段階で実施していることをHP等で紹介しているが・・・
- * 輸入食品が食卓に届くまで～輸入食品の安全管理～
You Tube→再生回数約3900回(ダイジェスト版約1900回)
- * 輸入食品監視業務FAQ→1割しか検査してなくて大丈夫？
- * 日中食品安全推進イニシアチブ他二国間協議
- * リスクコミュニケーション参加者
- * 学校での消費者教育～食育～

7

1. 消費者はなぜ不安に思うのか？

4) 違反事件のイメージ、メディアの記事

- * <過去の輸入食品に関する事件>
- * 2002年中国産ハウレン草残留農薬
- * 2005年中国産うなぎマラカイトグリーン
- * 2007年和菓子製品の解凍・再包装、不適正表示
- * 2008年中国産冷凍餃子薬物混入
- * 2011年外食店提供のユッケでO157食中毒
- * 2013年冷凍食品の農薬混入
- * 2015年異物混入による様々な報道
- * 2016年冷凍メンチカツO157食中毒

- * 危険を煽る記事が繰り返し掲載され、イメージが作られていく

8

2. 不安を取り除くためには

- * 情報・・・出しているだけでは伝わらない
→どうすればキャッチしてもらえるか？SNS、メディア戦略
- * 体験・・・知識だけでなく体感してもらう
→産地見学、工場見学、食育の場
- * 消費者は・・・情報リテラシーを高める
→消費者教育、消費者団体による学習会など

- * 前提として引き続きのしっかりとした管理体制
(フードディフェンスも)

9

最後に

行政・事業者・消費者
それぞれの取り組みで輸入品も国産品も
どちらも安心して選べるようにしたい

—ご清聴ありがとうございました—